

F 作者	谷川俊太郎
F 形式	口語自由詩
E 口語／文語	現在の言葉／昔の言葉
D 詩の形式（3）	①定型詩（五七など、一定の音数で構成された詩） ②自由詩（一定の音数のリズムがない詩） ③散文詩（パッと見、普通の文章のような詩）
E 比喩（何か／種類3）	たとえ ①直喩（「～のような・ようだ」などを使った比喩） ②隠喩（①③でない比喩） ③擬人法（人でないものを人にたとえる）
F 本作で比喩が使われている箇所とその種類	心のダム・隠喩
D 反復法（何か）	同じ語句を繰り返して強調する
D 対句（法）（何か）	似たような表現を繰り返す
F 「この気もちはなんだろう」で使われている 表現技法	反復法
F 「よろこびだ〜かくれている」で使われている 表現技法	対句（法）

自分のランクと、それより下のランクのもの全部／下の文章は確テには

んが、きちっと理解して下さい。重要です。

S/A：全て

BXS/A 以外

CX- ※自分より下のランク

DX- のものは全て

EX1 ※左記×教科書

F×1 のページ数

～詩歌の問題～

詩歌（詩・短歌・俳句など）は、言葉が少ないが故に、いろいろと読めてしまう・解釈できてしまうことが大きな特徴です。そのため、学校・先生によって説明・答えがずれることがよくありますし、中には内容に深く立ち入らない学校・先生があります。故に、各問に対する答えが、塾・塾テキストと学校でずれた場合、必ず学校に従って下さい。

～本作をより深く理解するために～

1. 様々な学問領域において、思春期・青春期（中1・2～20歳くらいまで）は、①自分の感情・気持ちに、自分自身がしっかり気づいていないし、上手く表現もできないことがある。②アンビバレントな感情（相反・矛盾する感情）をよく持つ。とされています（本当は、思春期を過ぎ、一般的に大人と呼ばれる年になっても、大多数の人は大して変わりません）。

2. 思春期は、肉体的にも精神的にも若いため、大きなエネルギーに満ちています：思春期は、死を意識するこ

とが難しいため、無限に人生が続くような錯覚を持ちます。そして、これからいろいろなことに挑戦していくので、まだ挫折を知りません。主にその2つの理由により、将来・未来に対して大きな希望・期待・夢を持ちます。故に、大きなエネルギーを持ち得ます。ただ、まだ何事も為していないので、確たる自信は持っていません。つまりその大きなエネルギーには、常に不安が同居している訳です。

→ 「地平線の～いたい」の2行は、こういった心情を端的に表現しています。